シーワールドのアニマル達

◎カナダからの生物

カナダのバンクーバー公立水族館で３月15日より９月15日まで「ウォーターズ・オブ・ジャパン」という日本の水産業や生物などを紹介する催し物が開かれ、当館からもタカアシガニやコブダイなどの日本特産の生物「17種231点」を贈りました。そのお礼として２月14日にバンクーバー公立水族館よりカナダの生物「38種190点」が当館に贈られて来ましたので紹介してみましょう。初めてみるカナダの生物ですから私達も興味がわいてきました。また酸素づめされたビニール袋に入れられて長い時間飛行機やトラックなどにゆられて来るものですから心配もありましたが無事22時間の長い旅の後鴨川シーワールドに到着いたしました。贈られてきた生物はグロテスクなヒトデ、恐しい顔をしたオオカミウオ、色とりどりのメバル、イソギンチャク、ウミエラ、そして岩のようなカニなどがいました。カナダと聞けば寒さを感じると思いますが、このカナダの生物は現在円柱水槽で水温を13℃にコントロールしながら飼育が続けられており、すでに10ヶ月を経過しました。この元気なカナダの生物達もお正月だけは正月休みをいただいて来年２月より再び皆様に御覧いただこうと計画しておりますので、ぜひ鴨川シーワールドで飼育されているカナダのめずらしい生物達を一度見に来て下さいね！ （平塚記）

▲オオカミウオの一種
Anarrhichthys ocellatus

▲メバルの一種
Sebastes nigrocinctus

▲タラバガニの一種
Lopholithodes mandtii

▲ヒトデの一種
Pycnopodia helianthoides

シャチの愛称について

今年２月、７年ぶりにお目見え致しましたシャチ達に愛称をつけていただこうと広く愛称募集を致しましたところ全国各地はもとより遠くアメリカからも応募をいただき総数8,722通に達しました。

応募された中には社名、地名、海等にちなんだ愛称が数多くありましたがシャチのイメージと親しみ易い愛称という事から５月５日にスマートで少し勝ち気ないたずら坊主のオスに…『キング』。少し太めでおっとりとしたメスに…『カレン』と決まりました。

多数のお客様のご協力ありがとうございました。心よりお礼申し上げます。

すでに数種類の芸を習いおぼえお客様に楽しんでいただいておりますが今後は「海の王者」というにふさわしいダイナミックなショーを楽しんでいただける様当館のアイドルとして大切に育てていくつもりです。

なおシャチの愛称募集に応募をいただきましたなかより「キング」「カレン」と名付けていただいた「決定賞」は東京都墨田区の斉藤弘樹君（11才）と東京都杉並区の藤木栄二様（28才）に決まり鴨川シーワールドホテル１泊招待と高級ラジオカセットが贈られました。その他佳作１等２等３等が148名様に贈られました。地元鴨川市内からは645通の応募があり、佳作１等には鈴木等君（11才）、佳作２等には小磯洋子ちゃん（11才）、金松卓磨君（９才）等が当選致しました。

表紙説明

シーワールドで産まれたハマクマノミ

鴨川シーワールドでは昭和48年に日本で初めてハマクマノミの仔どもを育てることに成功しました。その後も多くの仔どもたちが次々に育っており、各地の水族館に贈られ、多くの人々の目を楽しませてくれています。（祖一記）

さかまた No.15
編集・発行 鴨川シーワールド
〒296 千葉県鴨川市東町1464－18
☎ 04709（2）2121
発行日 昭和55年12月

さかまた

鴨川シーワールド　生物の豆辞典　No.15

◎魚の産卵

一口に魚の産卵といっても、泳ぎながら水中に数十万という卵を産む魚、岩や石などに一粒づつていねいに産みつけていく魚、草の根や葉を集めて巣を作りその中に産む魚、おすのおなかの中に産む魚…など卵の産み方は種類によって様々です。ここでは鴨川シーワールドで観察することができた魚の産卵について紹介してみましょう。

▲おすのおなかに卵を産んでいるイバラタツ
（左：めす　右：おす）

おすのおなかに卵を産む魚ーイバラタツ

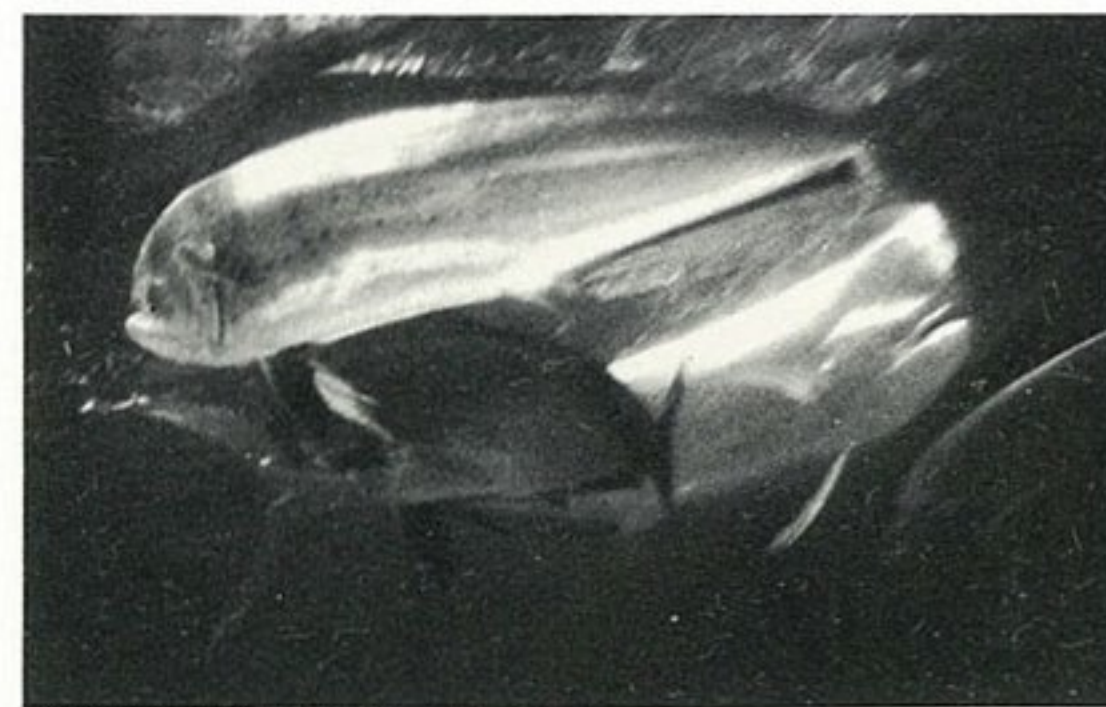
イバラタツは体長が15cm程のさんご礁に普通に見られるタツノオトシゴの仲間です。魚とは思えない奇妙な形をしていますが、よく見るとエラ、背ビレ、胸ビレ、腹ビレなどがちゃんとあり、れっきとした魚です。また、タツノオトシゴの仲間はめすがおすのおなか（育児のう）に卵を産むという風変りな習性を持っていることでも有名です。イバラタツの産卵はおすがめすを追いかけ互いに尾をからませて水底をゆっくりと泳ぐことから始まります。そしてお互いに意気統合した夫婦は尾のからみを解き、そろってゆっくりと水面近くへ上昇し再び水底へ下降するようになります。夫婦は上昇下降をくり返し、その間におすはおなかを大きく開き、めすはその中に卵を産み落します。そして産卵後15日から17日、卵からかえった親そっくりの子供たちはおすのおなかから勢いよく水中に産み出されるのです。一度に産み出される子供の数は200尾程ですが315尾も産まれてきて係員を驚ろかせたことがありました。

▲岩に卵を産んでいるハマクマノミ

岩や石に卵を産む魚ーハマクマノミ

ハマクマノミは体長が10cm程でイソギンチャクと共棲することで有名なかわいいさんご礁の魚です。産卵が近づくとハマクマノミの夫婦は口で岩についている藻類やゴミを丹念に取り除いたり、尾ビレで岩のまわりの砂をはらいのけたりして卵を産みつける岩の掃除に専念します。その後、めすはきれいになった岩にだ円形をしたオレンジ色の卵を一粒づつ産みつけていき、おすはその卵に精液をかけていきます。こうして夫婦は産卵、放精をくり返し、約1時間に1,000個程の卵を産み終えます。産卵が終っても夫婦は胸ビレや口を使って卵に新しい水を送ったり、ゴミを取り除いたりする他、近づいてきた敵（たとえそれが人間であっても）を激しく追いはらったりするなど休む暇もなく卵の世話を続けます。そして産卵から10日から15日後の夜、親が眠っているうちに子供たちは一斉にふ化し、潮に流され散らばっていきます。卵の間は精根こめて世話をした親ですが、ふ化した子供は食べてしまうからです。子供が去ってから数日後、ハマクマノミの夫婦は再び産卵を始めます。昭和46年から当館で飼育しているハマクマノミの夫婦は現在までに130回も卵を産み続けています。これはおそらく飼育下での世界記録と思われます。

泳ぎながら水中に卵を産む魚ーシイラ

シイラは世界中の暖かい海の表層にすんでいる魚で、成長すると2m近くにもなります。体を黄金色に輝かせて群れで泳ぐ姿はなかなか壮大なものです。

▲水中に卵を産んでいるシイラ

以前、シイラを飼育していたときのことです。おでこがでっぱった大きなおすのシイラがめすを追いかけ始めました。そのうち気の合った2尾は群れから離れ、円を描いて泳ぎ始めたかと思うと体を小刻みに振わせて一瞬のうちに卵を産みました。その直後、イサキやカゴカキダイなどの同じ水槽で飼育されていた魚が集まって来てあっという間に卵を食べてしまったのです。シイラは直径がわずか1.5mm程の小さな卵を20万～200万個も産みますが、それらの卵はふ化までの2日から3日間にほとんどが他の魚に食べられてしまいます。無事に産まれてきた子供も親になれるのはほんの数匹といわれています。一般に外洋にすむ魚は多くの卵を産みますが、なかでもクラゲを食べてのんびりと暮らしているマンボウはなんと3億個もの卵を産むそうです。遊泳力もなく敵から身を守るすべを知らないマンボウは卵を多く産むことにより子孫を残しているのです。もし、産まれたマンボウの子供がすべて親になったとしたら海はマンボウであふれてしまうでしょう。　（祖一記）

▲シイラの卵の発生　直径が1.5mm程の卵は2～3日間でふ化します。

トピックス

◎アイスランドから2万キロ　海の王者シャチお目見え！

昭和55年2月11日午後8時43分、7年ぶりにシャチが鴨川シーワールドにやって来ました。このシャチは、体長3.7m、体重760kgの雄（年令約3才）と体長3.6m、体重915kgの雌（年令約4才）の2頭で、カナダのナイアガラマリンランドから鴨川シーワールドまで、のべ30時間にもわたるジェット機とトラックの長い旅にもかかわらず、大勢の人々の見守る中で、ほとんど係員の手助けも必要なく元気にプールの中で泳ぎ始めました。

鴨川シーワールドでは、昭和45年10月1日開館するに当り、アメリカより2頭のシャチを買い入れ、日本で初めてのシャチの飼育を始めました。しかし、「海の王者」にふさわしいダイナミックなショーを見せてくれましたが、日本の気候になれきれずに3年11ヶ月で、短い生命を終ってしまいました。

鴨川シーワールドでは、今回のシャチのために、一年中一定の水温に保つことができるプールに作りかえてシャチを受け入れました。それは、このシャチが、アイスランドで生捕られたもので、日本よりも冷たい所にすんでいて、日本の暑さにもだいじょうぶなように心をくばったためでした。

今年の夏を無事に乗切り、今では10数種の芸もおぼえ、ますます元気な毎日を送っています。（清水記）

▲シャチの水中給餌